

小学校教員免許を取得する学生への意識調査と変遷

武田 彩奈 (弘前大学)

1. 目的

小学校期において重要な教科の一つである「体育」に対する認識・意識や、児童に教えるとなった時の思いを明らかにし、先行研究^{1) 2)}で得られた昭和50年代(51・54年本学入学)の学生のデータと照らし合わせて、その変化と傾向を考察した。

2. 研究方法

- 1) 対象者：H大学教育学部3年生小学校教員免許取得希望者、男子32名、女子57名の計89名(有効回答率69.5%)を対象とした。
- 2) 調査期間：平成30年10月18日～11月2日
- 3) 調査方法：質問紙による調査を以下内容で実施
 - ① 小学校で教える9教科の「重要度」「好感度」「教え易いかどうか」の3点について
 - ② 技能教科(音楽・図工・体育)の3教科
 - ③ 体育実技の運動領域別
- 4) 分析方法：各項目の単純集計並び、特定項目

3. 結果と考察

1) 小学校9教科の重要度

5段階で評価した結果、男女ともに国語・算数が昭和50年代から変化はなく、「重要度」が高い教科と位置づけられた。体育については、男子では変化がなく高順位(2, 3位)であったが、女子では平成30年にかけて順位が3つ下がり、他教科と比べ低い方へ移行した。「好み」では、男子ではどの年代でも体育が一番好まれる結果となった。また昭和50年代から順位を上げた教科は理科と音楽であった。一方、女子で大きな変化は、順位が上がった国語と、逆に下がった図画工作であった。体育は昭和50年代では下位の順位であったが、平成30年では9教科中4位と順位が上がった。「教え易さ」では、男女ともに理数教科や技能教科が教え易い教科になっている。

体育に絞り、重要度・好み・教え易さの三項目を二項目ずつクロス集計にしたところ、どの組み合わせでも男女ともに互いに関係がみられた。

2) 技能教科の難易度

3教科内で最も実技をするのが難しい教科の一つを選んでもらったところ、男子では音楽が半数を占め、女子では音楽と体育が同率で実技をするのが難しい

教科という結果になった。また、同様に教える難しさを聞いたところ、男子では音楽が半数以上を占め、女子では2%差で音楽が一番、体育が二番目に教えるのが難しい教科となった。また2つの質問での各教科の割合が男女ともに傾向が類似していることから、自分が実技をするのが難しいと感じる教科は、教えるのも難しいと感じていることが推察された。

3) 体育実技の運動領域

体育実技の領域内で教えるのに自信がある領域は、上位2領域は男女ともに同じ領域(体づくり運動系とボール運動系)であった。それ以降の順位に男女の共通点は見つけることができなかった。教える際に自信と関係してくるものは、体育の授業以外での自身の競技経験や領域の自由度の高さであった。重要だと思う領域は、男女ともに群を抜いて体づくり運動系が最も重要だと思われていた。1～4位までは男女ともに選ばれた領域が一緒で、2位に水泳運動系、3位に陸上運動系、4位に器械運動系が位置づけられた。また重要だと思う順に順位づける際の基準となったのは、体を動かすうえで基礎となる(様々な動きに結びつく)運動であることや、身を守ったり、怪我を防いだりするために直結する運動であること、誰もがができる優しい運動であることなどが挙げられた。

4. 結論

以上より、女子よりも男子の方が体育を重要視し、好み、教え易い教科であるという認識が示され、男子では年代による意識の変化は小さく、いずれの年代でも高評価だが、女子では平成30年にいずれの項目も評価が下がった。また、実技の得意不得意が、教え易さに関係してくることが浮き彫りになり、養成段階での実技指導の重要性が示唆された。

5. 主な参考文献

- 1) 麓信義・小山秀哉(1983) 小学校教員養成課程学生の意識調査-体育科の実技授業を中心として-, 弘前大学教育学部紀要, 50, pp. 45-60.
- 2) 麓信義・小山秀哉(1984) 小学校教員1年生の意識調査-学生時代の調査との比較を中心として-, 弘前大学教育学部紀要, 52, pp. 61-70.